

両沼地方稲作情報 第7号

(令和6年度総括)
令和6年12月12日

発行：福島県会津農林事務所会津坂下農業普及所 (電話0242-83-2113)
" 金山普及所 (電話0241-54-2801)

J A会津よつば 各営農経済センター、(有)カネダイ、(有)猪俣徳一商店、(有)山一米穀店、
会津宮川土地改良区、阿賀川土地改良区、会津坂下町只見川土地改良区



QRコード

会津坂下農業普及所のHPでは、これまで発行した稲作情報を掲載しております。
その他、様々な情報を発信しておりますので、お気軽にご覧ください。

「両沼」+「稲作情報」で検索！

1 はじめに

生産者や関係機関の声を聞くと、令和6年の収量は「やや少ない～少ない」という傾向だった。品質については、「白未熟粒を含めた未熟粒、胴割れが平年より多い」、「1.9mmで選別するとくず米が平年より多い」という傾向だった。これらの要因を、今年の気象から考察し、整理する。

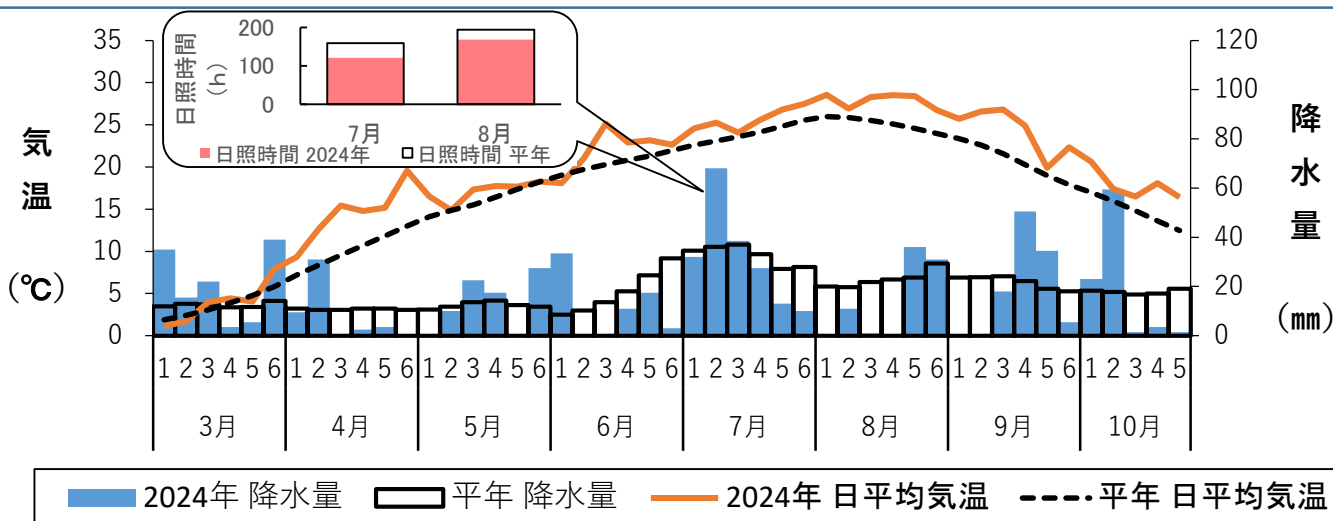


図1：日平均気温と降水量の平年との比較（アメダス若松）

日平均気温と降水量について、半月単位で平年値（1991～2020の30年平均）と比較した。

2 各気象が生育に与えた影響

(1) 4月～5月初旬の高温と水不足

平年よりも高温となり、育苗期間中に苗焼けや病気のリスクが高まった。根雪がない影響で、水不足により代かきを始められない地域があった。

(2) 5月後半～6月前半の低温

平年よりもやや低温で推移し、移植された稲は生育遅滞や初期分けつ抑制等の影響を受けた。未活着（遅植え、老化・病気・生理障害等の苗）のほ場で特に影響が大きかった。この影響の差が、後の生育や収量に差異をもたらした。

(3) 6月中旬の好天

6月は好天が続く、生育遅滞が解消されるほど生育が順調に進んだ。しかし、高温により草丈は伸び、徒長となる傾向があった。先の生育遅滞により、ほ場間の生育のばらつきが大きかった。

(4) 7月上旬～中旬の日照不足

7月上～中旬は、気温がやや高く、日照時間が平年より少なく、さらに徒長しやすい状況だった。また、初期生育が遅れたほ場では、窒素吸収が遅れ、7月～出穂にかけて、葉色が濃い状態が続いた。

7月前半に雨が続いたことにより、十分に中干しを行えなかった結果、茎数を抑制できず、倒伏リスクが高まった。

(5) 8月後半の日照不足

8月第2・3半月は、日照時間が平年よりも少なかった。7月末～8月初めに収穫したほ場では、登熟期間前半（収穫後20日間）の低日照が影響し、未熟粒が増加しやすかった可能性がある。

(6) 9月後半と10月前半の大雨

9月は気温が平年より高く推移したが、長稈傾向と中旬以降の降雨により倒伏が進んだため、登熟が停滞した。倒伏と10月の降雨により刈取が遅れ、玄米品質が低下した。

3 収量構成要素、倒伏、品質

(1) 収量構成要素（穂数）

春先の水不足の影響で、節水を目的に湛水にしていたほ場で、移植後に土壌の異常還元（ガス湧き）が多く見られた。これにより未活着、または根張りが弱かったほ場では、根がダメージを受け、茎数は平年よりも少なく推移した。活着し根張りが進んでいたほ場では影響が軽微で、その後の好天で分けつが進み、平年並以上の穂数を確保できた。また、十分に中干しを行えなかったほ場では、茎数を抑制できず、穂数過多となる傾向だった。

(2) 倒伏

6月の高温や7月中旬の日照不足により、下位節間が伸び、徒長した。9月後半の降雨により、コシヒカリを中心に多くのほ場で倒伏が見られた。

(3) 品質

7月末から8月後半にかけて、日平均気温が26°Cを超える高温の日が続き、この時期に出穂したほ場では白未熟粒が発生しやすかった。8月後半以降も平年より気温が高く推移した一方で、日照不足となり、収穫の早いほ場では、登熟不足による未熟粒が発生しやすかった。また、倒伏の多い品種では、降雨により胴割れと穂発芽が多く発生した。

(4) その他

斑点米カメムシ類の発生（被害）は平年以上だった。いもち病の発生は、直播栽培ほ場で散見された。

4 まとめ

今年の気象のポイントは「**4月の高温**」と「**7月以降の日照不足と雨**」だった。健苗移植により活着がスムーズだったほ場では生育への影響が少なかったことから、異常気象への対策は、育苗をはじめとする基本技術の励行が重要である。

5 水稻栽培における対策【倒伏防止編】

(1) 基本（詳細は、稲作情報第4号を参照）

- ・移植後、土壌の異常還元（ガス湧き）を解消し根傷みを防止する。
- ・中干しを適期・適切に実施する。
- ・ケイ酸カリ等資材施用により丈夫な稲体を確保する。

(2) 分肥（元肥+追肥）体系の検討

生育状況に応じて微調整できるようにする。
※一発肥料剤の場合は、入れすぎに注意する。

(3) その他

6~7月の草丈を確認し、生育目標より長い場合は倒伏軽減剤の散布を検討する。

(1) ~ (3) の中で実施可能な方法を選択しましょう。

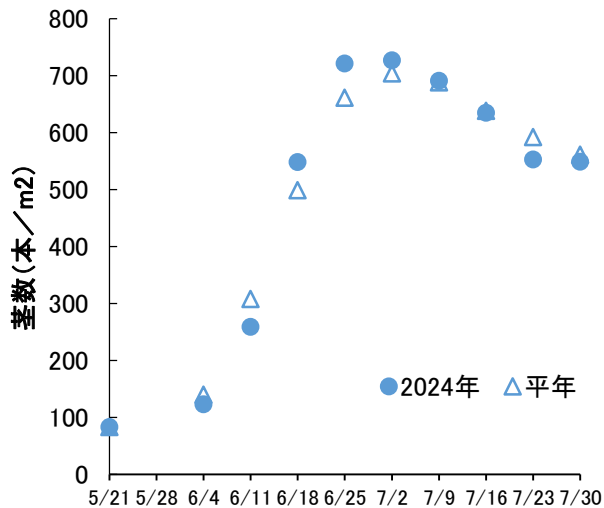


図2：茎数の平年との比較

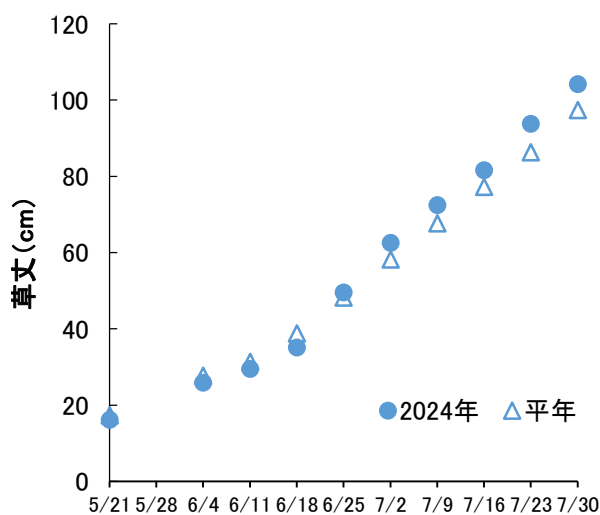


図3：草丈の平年との比較

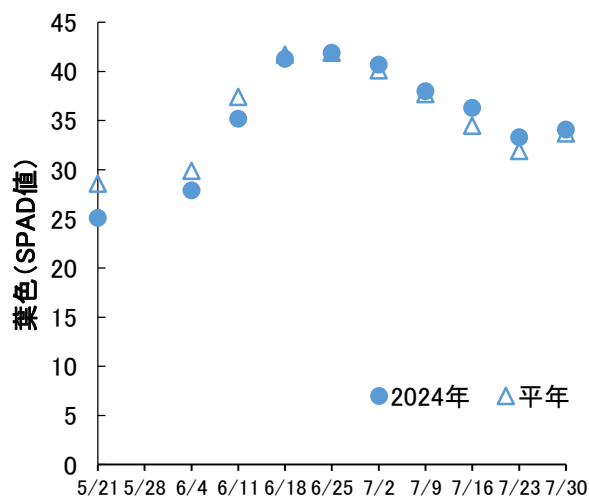


図4：葉色の平年との比較

※図2～4は会津地域研究所の作柄解析試験（コシヒカリ）より。